藤工 BLAZE for our well-being! Journal Vol.11 Nov. 9th, 2026

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

★10/26（月）藤岡工業高等学校 開校記念講演会　兼 第２回『藤工 BLAZE for our well-being！』講演会★

『藤工 BLAZE for our well-being！
～自ら考え、判断し、行動してたら、ドラマづくりしちゃってた！』



今年度、本校が掲げる『藤工 BLAZE for our well-being！』の最上位目標は、『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』です！そのために、自ら未来を切り拓いていく『Agency』と、困難や失敗に直面しても、そこから立ち直り、しなやかに前へ進んでいく『Resilience』を発揮しながら、『自分だけではなく、自分の周りにいる人々のしあわせ』にもつながる行動ができる人になってほしいと考えています。そういうこともあり、同窓会の方々の承諾を得て『創立６４周年開校記念講演会』を『第２回 BLAZE 講演会』と兼ねさせていただきました。

講演していただく方を選ぶ際には、生徒に身近に感じていただける存在で、かつ『Agency』と『Resilience』についてお話いただける方を探していました。そこで私が桐商勤務時代に『桐商ドキュメンタリー動画』を制作していただいた、カンテレに勤務しているかつての教え子の中林佳苗さんに依頼し、今回の講演会が実現しました。

講演のなかでも話に出ましたが、中林さんが高校２年と３年のときに、私が担任を務めたことがご縁です。テレビ業界という世界に飛び込んだ中林さんでしたが、大阪本社ではバラエティ番組制作を担当し、東京に転勤した時も宣伝部に配属され、なかなか念願のドラマ制作に携われませんでした。

講演にもありましたが、転機は自分の判断で応募した、動画配信サービス Hulu が開催した『第２回 Hulu U35 クリエイターズ・チャレンジ』の最終選考に残ったことでしょう。そのことが影響したのか、現在は、ドラマのプロデューサー、監督、脚本の３つのお仕事に勤しんでいらっしゃいます。

私が藤工生にお伝えしたいことは、みなさんと同じように群馬の高校生だった方が、自分の夢や目標に向かって苦しみながら、望んでいない業務であっても何年間もしっかり勤め上げ、『道なき道』から『自分の道』を『切り開いた』ということです！中林さんはうまくいかないときに『他責（他人を責めること）』ではなく、『自分にできることは何かを考え、行動』したのです！『会社のせい』『上司のせい』『周囲のせい』『時代のせい』『環境のせい』ではなく、『自分にできることは何か？』に活路を見出した中林さん。私も彼女から刺激を受け、自分の仕事に向き合っています！みなさんも思い通りにいかないことがあるかと思いますが、『自分がすべきこと・できること』に目を向けてはいかがでしょうか？困難に打ち勝つことにつながるかもしれません！　校長　星野　亨

生徒の感想文その1(それぞれ一部抜粋！)･･･中林佳苗先生のお話は、藤工生の『心』に深く深く刻まれております！

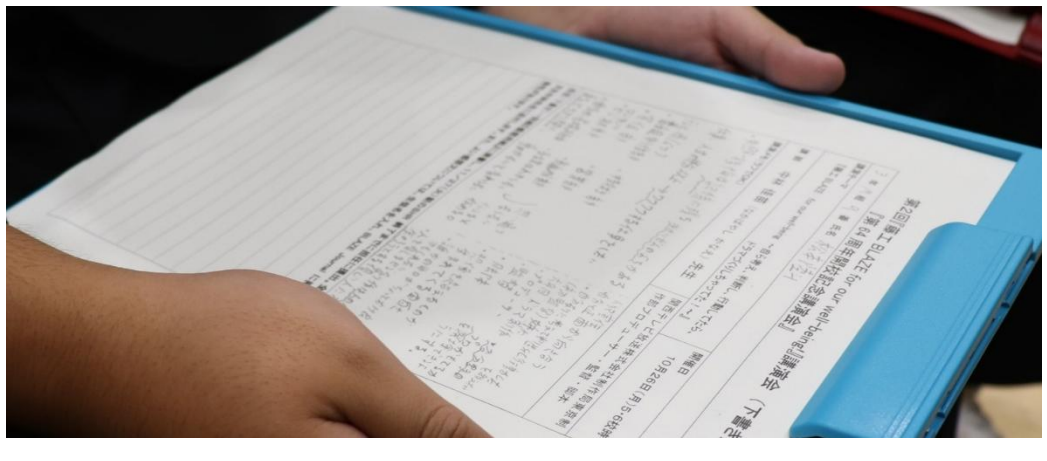
今回の講演会を聞いて一番心に残ったのは『自分で考え、判断し、行動することの大切さ』でした。中林佳苗さんは『人生はうまくいかないことの方が多いけれど、失敗や後悔も自分を成長させるために必要な経験だ』と話していました。僕も今までうまくいかないことや後悔することがあって落ち込むことが多かったけれど、それも自分の力になると思うと、これからは失敗を怖がらずに挑戦していきたいと思いました。また、人を楽しませることを仕事にするためには、自分の考えだけではなく、相手の気持ちを知ろうとすることが大切だと感じました。自分はこれから周りの人の意見を聞きながら、自分で考えて行動できるようになりたいです。　１年１組　黒岡　海斗

私は今回の講演中に聞いた『結果はわからない。だからこそ動いてみる。』という言葉に勇気をもらいました。今まで努力することの意味を理解していなかった私にとって、この言葉はとても大きな勉強になりました。中林さんは現在の職業である制作プロデューサーという仕事に就くまでにたくさんの挫折を経験されていると思いますが、それだけたくさんの努力をされてきたのだと感じました。自分の居場所を自分で切り開くためには、何事も全力で取り組むことが大切なのかなと思いました。２年後に就職するのか進学するのか、まだわかりませんが、『行動して得たものには価値がある』という中林さんの言葉を信じて、夢や目標に向かって努力していきたいと思います。１年１組　齋藤　丈瑠

今回の講演会を聞いて、自分の将来について考えることや、自分で判断して行動することの大切さを学びました。失敗や後悔も、自分の成長につながり、記憶に残る大切な経験になるのだと思いました。また、自分の居場所を誰かが作ってくれるのを待つのではなく、自分から行動して切り開いていくことが大切だと思いました。行動することで得られるものがあり、毎日の一瞬一瞬の積み重ねが、将来につながっていくのだと思います。これからは失敗を恐れず、自分で考えて行動し、後悔の少ない学校生活を送っていきたいです。　１年２組　篠原　礼雅

今回の講演会を聞いて、一番心に残ったのは、『自分の居場所は自分で切り開く』という言葉です。中林さんはテレビ局に入社された後、思い通りにいかない時期や大変なことがあったようですが、そこで諦めずにご自身で映像のコンテストに応募したというのを聞いて、とても強い行動力があるんだなと思いました。仕事が終わらなくて帰れないことや、ご飯を食べる暇もないというテレビ業界のリアルのお話はプロの世界の厳しさを感じました。しかし、そうした大変な経験も、すべて人生ととらえていて本当にすごいと感じました。『動かないと変わらない』という言葉の通り、これからの学校生活や進路で、壁にぶつかっても他人のせいにせず、自分で道を切り開いていけるようになりたいです。また、お話にあった『観た人を幸せにする』という言葉のように、自分の磨いた技術で誰かを笑顔にできるように頑張りたいです。　１年２組　山上　瞬







生徒の感想文その2(それぞれ一部抜粋！)･･･中林佳苗先生のお話は、藤工生の『心』に深く深く刻まれております！

創立 64 周年開校記念講演会を聞いて感じたことは、中林さんの行動力が素晴らしいと感じました。自分のやりたいことの実現のために、積極的に行動する姿勢、そして、このままではいけないと未来のことを考え、そして、行動するというところを参考にしなければいけないと思いました。『人を楽しませる創作は、人の心を知ろうとする優しい心の人にしかできない』というお話の通り、中林さんの行動力の根底には、周囲への優しさがあるのだと感じました。私もこれから与えられた環境に甘えるのではなく、自ら考え、周囲を思いやりながら未来に向かって行動できるように行動していきたいです。

２年M組　黒沢　悠真

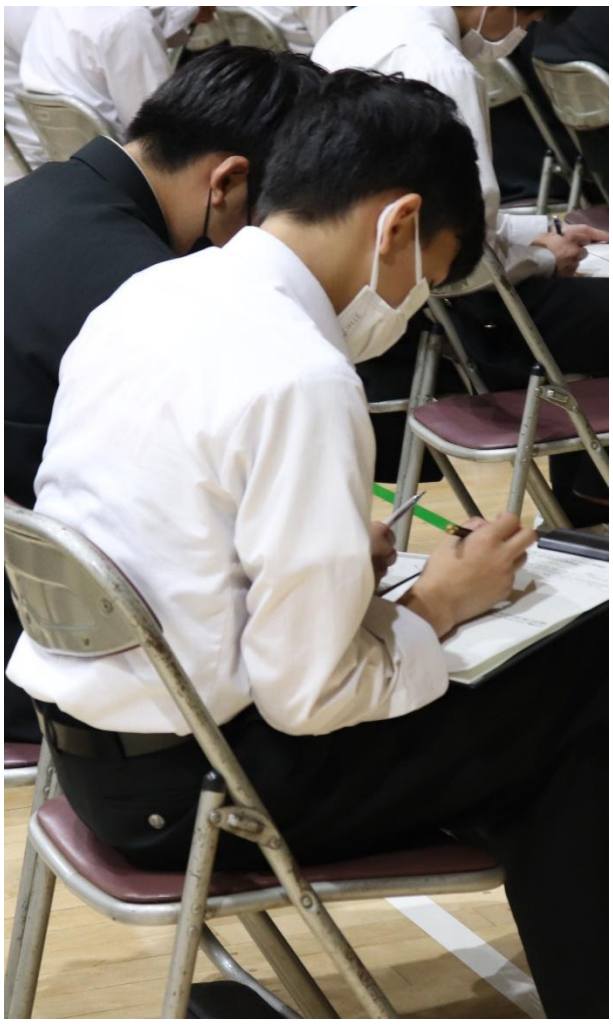
最初は希望していなかった仕事でも、経験を積みながら新しい仕事に挑戦していったことが印象に残りました。また、自分から行動することで次の仕事につながることもあるのだとわかりました。ドラマ制作では、それぞれの分野のプロが力を合わせて一つの作品を作り上げることがすごいと思いました。仕事では最初から自分の希望通りにならなくても、努力や経験によって新しい道が開けるのだと感じました。また、『行動した結果、得られるものには全て価値がある』という話も心に残りました。私も失敗を恐れずに行動し、さまざまな経験を積んでいきたいです。これからは苦手なことにも積極的に挑戦をして、自分のこれからの成長につなげていきたいと思いました。２年Ｍ組　中堀　遥翔

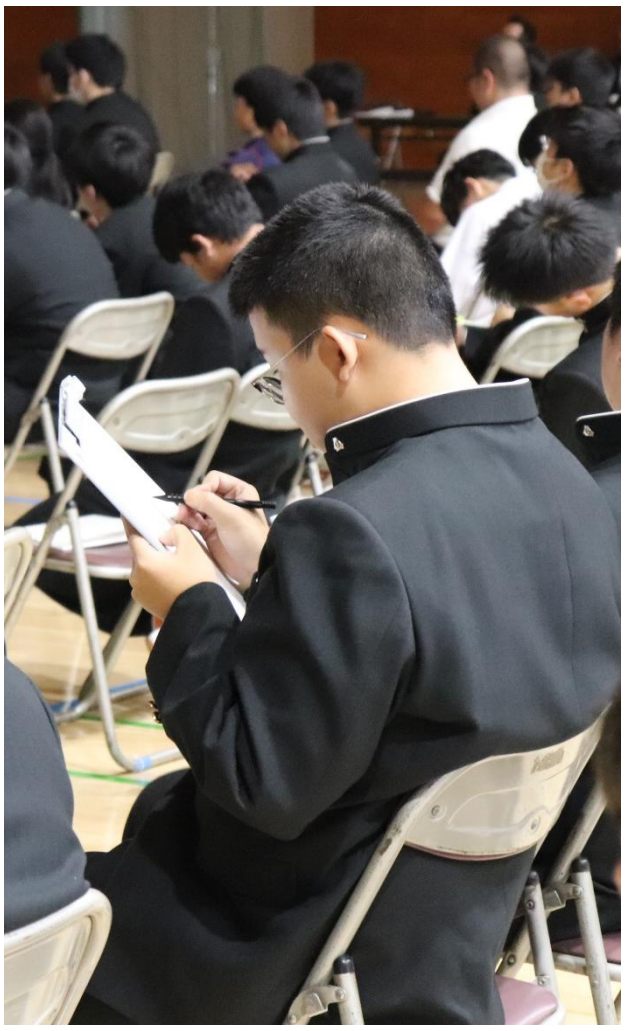
中林さんの話を聴いて一番感じたことは、『何事にもとにかく挑戦、行動し、自分の居場所は自分で切り開くこと』がとても大切なのだと感じることができました。そして、それを実行するためには、自分の現在地を知り、人の心を知ろうとすることを意識して生活していくことが必要だと知ることができました。また、生きていくなかで不要なものは何一つなく、色々な人と関わることで、自分の行動や発言が伝わっていくのだなと感じることができました。

２年Ｅ組　田中　晴士郎

中林佳苗さんの講演会を聞いてみて、感じたこと、思ったことは、失敗や後悔は記憶に残る悪いことだと、今までは思っていましたが、話を聞いてみて考え方が変わり、中林さんの言っていた『改善の余地がある』という言葉を知ってからは、失敗は悪いことで終わらせずに、後悔が残らないように前に進んで、改善していこうと思いました。また、自分から行動することが少ないので、結果がわからずに終わってしまうことが多くあり、自分から動いてみないと何も変わらないことに気づき、将来の自分のためにも、今から変えられるところは変えていって、後悔することのないようにしていこうと感じました。

２年Ｅ組　吉田　蓮







生徒の感想文その3（それぞれ一部抜粋！）･･･中林佳苗先生のお話は、藤工生の『心』に深く深く刻まれております！

テレビやドラマの撮影の裏側という普段見ることのない貴重な映像を見ることができて楽しかった。１シーンを撮影するだけでも、色々な話し合いをしたり、調整をしたり、何パターンを撮影したり、多くの時間をかけてやっていると知って驚いた。印象に残っている言葉は、『貴重な今をどう過ごすか』です。高校生活も残り少ないので、できることをいろいろとやってきたいと思いました。　３年M組　温井　美月

今回の講演会を通して、自ら考え、判断し、行動することの大切さを学びました。人生の半分以上が働く時間だからこそ、自分の居場所は自分で切り開いていくことが大切だと感じました。また、自分と正面から向き合い、人の心を知ろうとすることは、優しさにつながるのだと思いました。これからは自分の考えを大切にしながら、周りの人の気持ちも考えて行動していきたいです。『全ては人生というパズルのピースだ』という言葉を忘れず、失敗や経験も自分の成長につながるものだと考え、前向きに取り組んでいきたいです。そして、自分と正面から向き合いながら、自分の居場所を自分で切り開き、周りの人から信頼される人になれるように頑張りたいです。　３年M組　原　礼泰

今回の講演会で、私は自分にとって重要なことをいくつも学びました。特に、『自分の居場所は自分で切り開く』や『人を楽しませる創作は人の心を知ろうとする優しい人にしかできない』という言葉には、気づかされることがありました。私も微力ながら脚本を創っています。中林先生がおっしゃっていた『誰かの毎日がちょっとだけ良くなるかもしれない』という言葉は、作品を創る上で大事な考え方なんだと思います。私もその言葉を大事にして、いつかは立派な作品を生み出せるように頑張りたいです。　３年Ｌ組　青木　維獅

貴重なお話をありがとうございました。放課後に校長室でお話ししたように、自分は将来プロデューサーになりたいと考えているので、とても貴重な時間になりました。自分はこれから４年間専門学校に通うのですが、少しでも多く吸収するために自分から動いて、失敗してもそこから学んで目標に向かっていきたいと思いました。人の心を知ろうとして人を楽しませる創作ができるように頑張ります。　３年Ｌ組　塩川　愛斗

自分が特に印象に残っているのは、『全ては人生というパズルで、不要なものは何もなく、行動した結果、得られるものには全て価値がある』という言葉です。これを聞いたときに、確かに今、昔を思い出してみたらあの時は嫌な思いをしたり、あまりいい思い出じゃなかったけど、今思えばあれのおかげで今があるんだと思ったり納得することが多くて、すごく心に響きました。　３年Ｅ組　関口　聡太

中林佳苗先生の話を聞いて、『貴重な今をどう過ごすのか』という言葉がすごく印象に残りました。なのでそういった経験を無駄にせず、いろいろなことに挑戦していこうと思いました。また失敗や後悔こそ記憶に残るけれども、改善の余地があるとおっしゃっていて、確かにその通りだと思いました。そして、怖がらずに勇気を出して改善していこうという気持ちになれました。中林佳苗先生のお話を忘れず、学校生活を過ごせたら良いなと思いました。　３年Ｅ組　鈴木　司







講演後、同窓会長さまを交え、懇談！